

ワクチン政策における費用対効果の分析

●ICER (Incremental cost effectiveness ratio)

$$\text{ICER} = \frac{\text{追加でかかった費用}}{\text{増えた健康効果(QALY)}}$$

(=追加で元気な1年を得るのにかかる費用)

日本では概ね ICER=1QALYあたり500万円未満
→社会的に費用対効果が良い→政策として前向きに検討

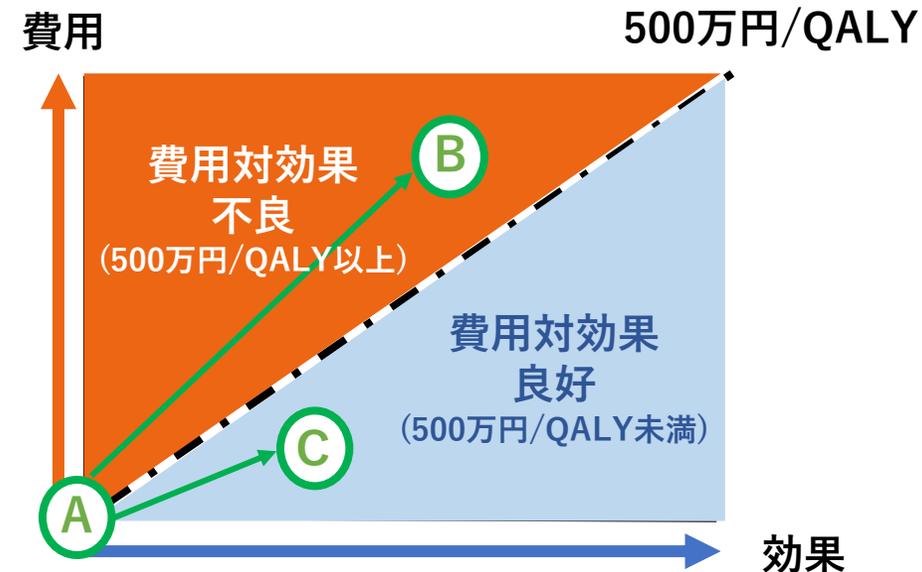
ワクチンのICERは、「接種費用(薬剤費や人件費etc)」や「防げた医療費・重症化・後遺症etc」を考慮した上で、どれだけ健康寿命を延ばせたかを評価したもの。

※いくら効果が高い治療であっても、治療の単価(薬剤費)が高いとICERは悪化(数値としては上昇)する。

【HPVワクチンの男性接種に当てはめると、、、】

女児の接種率によって費用対効果は大きく異なる！！

- 女児の接種率が低い=男性からの間接効果↑(ICER改善=費用対効果は良くなる！！)
- 女児の接種率が高い=男性からの間接効果↓(ICER悪化=費用対効果は悪くなる。。)



A:何もしない場合
B:1回3000万、5年の寿命延長(=600万円/QALY)
C:1回500万、2年の寿命(=250万円/QALY)